

審査の結果の要旨

論文提出者氏名：平井裕香

本論文は川端康成の文学における「声」と「身体」の問題に注目し、これを言文一致後の日本語の問題と関連づけながら、川端の初期から後期に至るテキストを綿密に分析し、川端をめぐる従来の批評に対して新しい川端文学へのアプローチ、作品の読みを提示するものである。分析の手つきは細やかで、論証に説得力があり、密度の濃い論文であるばかりでなく、本論文で実践されているテキスト分析の方法は広く日本近代文学の問題を考える上で多くの示唆を含んでおり、川端以外の作家たち、さらには現代日本文学の批評についても適用できる可能性をもち、その意味でも価値の高い論文であると審査員全員の意見の一致をみた。

「主体」に対する「他者性」の問題を扱うに際して論文中で用いられている「情動」という概念についてはこれをより広い理論的な研究の蓄積を踏まえて精査する必要があること、川端文学とモダニズムの関係については日本におけるモダニズム文学をめぐる問題系の中で改めて検討する必要があること、また本論文中で用いられる「写生」という用語に関しては執筆者の意図が必ずしも明確に伝わっていないのではないかといった指摘があったが、いずれの指摘や問いに対しても、平井氏が問題の所在をよく理解しており、今後の研究の課題として取り組むものとして心得ていることが質疑応答の中で明らかになった。

本論文が日本近代文学研究の進展に貢献する見事な成果を挙げていることは疑いの余地がなく、審査委員会は全員一致でこれを博士（学術）の学位を授与するにふさわしいものであると認定した。